

平成27年度 全国学力学習状況調査の結果

京都市立下京渉成小学校

4月22日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数、理科ともに全国平均を上回る結果でした。特に、理科は全国平均、京都府平均を大きく上回っていました。どの教科も無解答が少なく、問題に向き合い、それに取り組む姿勢の向上がみられました。

国語科より

国語A(主として知識)

新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章の全体の構成や表現の工夫をとらえる問題では、全国平均を大きく上回っており、読みとりの力がついてきている。

唯一、全国平均を下回った設問は、登場人物の関係を図式化する問題であった。読み取った内容を図にする力をつけることが課題となる。

国語B(主として活用)

学校新聞を書く場面において、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題でも、全国平均を大きく上回っており、授業等で学んだ知識を活用する力もついてきている。

算数科より

算数A(主として知識)

計算や測定の処理については、ほぼ全国平均である。一方、 180° よりも大きい角度のおよそを捉える問題や直方体の展開図に関する問題に課題が見られた。

算数B(主として活用)

正方形の面積を、示された条件を踏まえて出す問題については、全国的にも課題のみられた問題であったが、本校児童も情報を活用して解けた児童は半数以下であった。

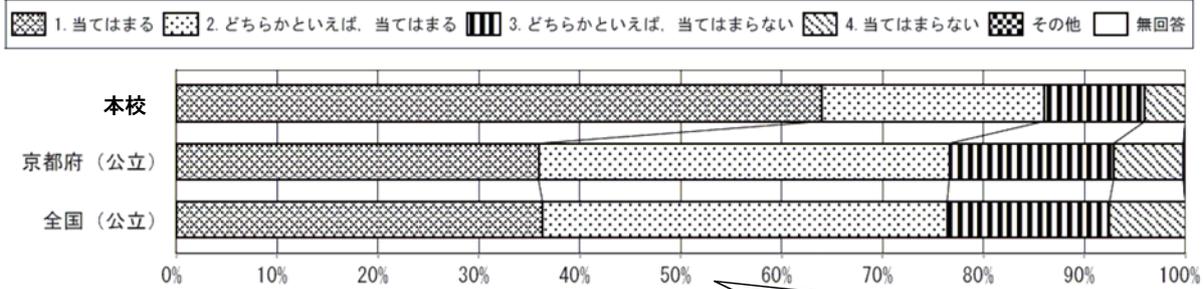
日常生活の事象を、図形の約束や性質と関連付けたり、日常生活の出来事の解決に割合の考えや概数や概算を活用する習慣をつけていく必要がある。

理科より

観察、実験の器具について、適切な操作技能についての問題は、全国平均を大きく上回っており、日頃より観察、実験を多く授業に取り入れてきた成果がみられた。一方、グラフを基に考察して分析し、他と比較して解釈した内容を記述する問題には、やや課題がみられた。今後も、観察、実験を通して、事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を述べるといった言語活動を引き続き授業で取り入れていく必要がある。

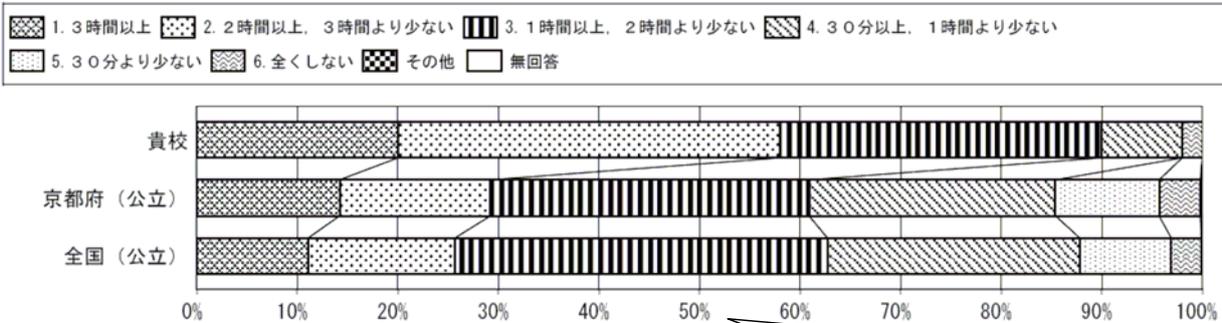
児童質問紙調査より

(1) 自分には、よいところがあると思いますか。



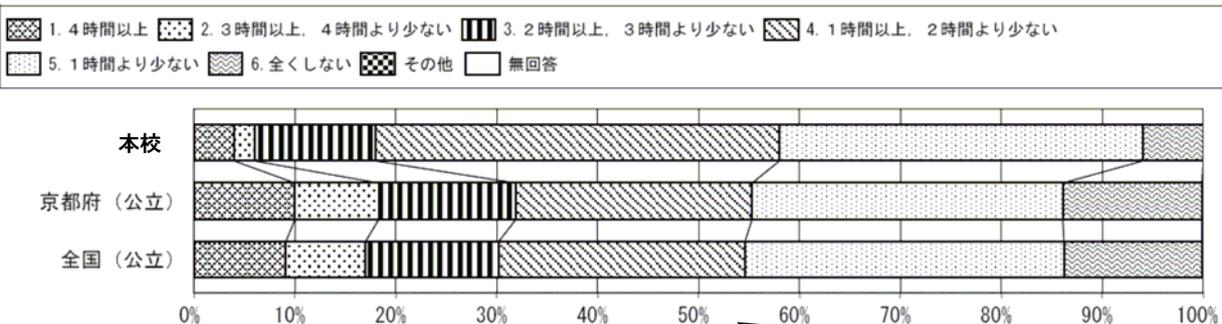
「あてはまる」と答えた児童が、本校は大幅に平均を上回っている。家庭や学校で、自己の存在を肯定的に受け止められるような働きかけを今後も続けていくことが大切である。

(2) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日),1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。



90%以上の児童が、1時間以上の家庭学習をしている。60%近い児童は、2時間以上である。1日の中で、家庭学習をする時間が定着していることが学力向上に大きく影響している。

(3) 普段(月～金曜日),1日当たりどれくらいの時間,テレビゲーム(コンピューターゲーム,携帯式のゲーム,携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



ゲームを2時間以上している児童の割合は全国平均より、大きく下回っている。しかし、ゲームをしている児童の割合は、90%を越えており、テレビゲームの時間をどう家庭でルールを決めて守っていくかが今後の課題となる。

保護者の皆様

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばせるよう、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表すものではなく、順位を競うものでもありません。

本校の結果をみると、ご家庭での子どもに対する温かい関わりやきめ細やかな指導、支援が基盤となって、子どもたちが力を発揮しているものと思われます。学力は、学校・家庭・地域の三者が協力していくなかで、より大きな効果をあらわすものです。今後も、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。